

From the
People of Japan

ECOWAS諸国の紛争予防・管理能力強化のためのマリでの平和維持学校への支援

\$ 予算: 300,000 米ドル

🕒 実施期間: 2023年3月～2024年3月

開発課題

国際社会から派遣された軍の一部、主にフランス軍は、既にマリを離れた。また、G5サヘルからもフランスは脱退している。MINUSMAによれば、このような状況は、武装テロ集団に悪用されかねない「空白の地域」を生み出す可能性があるという。このような非国家的、あるいは弱体な国家の存在状況の中で、市民はますます脆弱になり、テロリストや武装集団による治安の悪化にさらされている。このような複合的な課題を緩和するためには、防衛・治安部隊と民間人を訓練することにより、各国の現場での平和支援を強化することが急務である。

提案されているプロジェクトは、アクター（ジェンダー、平和と安全、一般市民の保護、民軍協調、リスクと災害、UNPOLなど）の能力構築を通じて、人権に基づく横断的、統合的、あるいは専門的な保護の全体的アプローチに貢献する。宿泊地・就労のための物流能力が限られているにもかかわらず（募集定員25人に対し平均90人の応募）、アリウーン・ブロンダン・ベイ平和維持学校（EMP-ABB）は、研修生の技術力を向上させるため、一層の努力をする必要がある。また、ニーズや課題により適切に対応できるよう、十分かつ大容量のインフラを整備することも必要である。

プロジェクトの目的

ZIM-ECOプロジェクトは、ジンバブエ選挙管理委員会の能力を強化することにより、同委員会の有効性を高めようとするものである。また、女性と若者の参加と障がい者の選挙プロセスへのアクセスを改善するための選挙管理委員会と他の利害関係者の活動を支援することによって、選挙プロセスにおける説明責任と包摂を強化することも目的としている。具体的には、このプロジェクトには次のような目的がある：

ECOWAS諸国の軍、警察、文民職員が、紛争予防と管理、リスクと災害の分野における能力強化により、人権尊重の観点から紛争や暴力的過激主義を予防する能力を高める。

プロジェクトの成果

ECOWAS 諸国の軍・警察・文民要員の技術的能力が紛争・災害予防・管理分野で強化され、文民の保護を強化し、ジェンダーに配慮した平和維持活動に参加できるようになる。

コースの質が改善され、学校は最新かつ認知度の高い訓練（認定）を提供する。

パートナーシップ

日本政府

SDGSへの貢献

5 ジェンダー平等を
実現しよう16 平和と公正を
すべての人に17 パートナーシップで
目標を達成しよう